

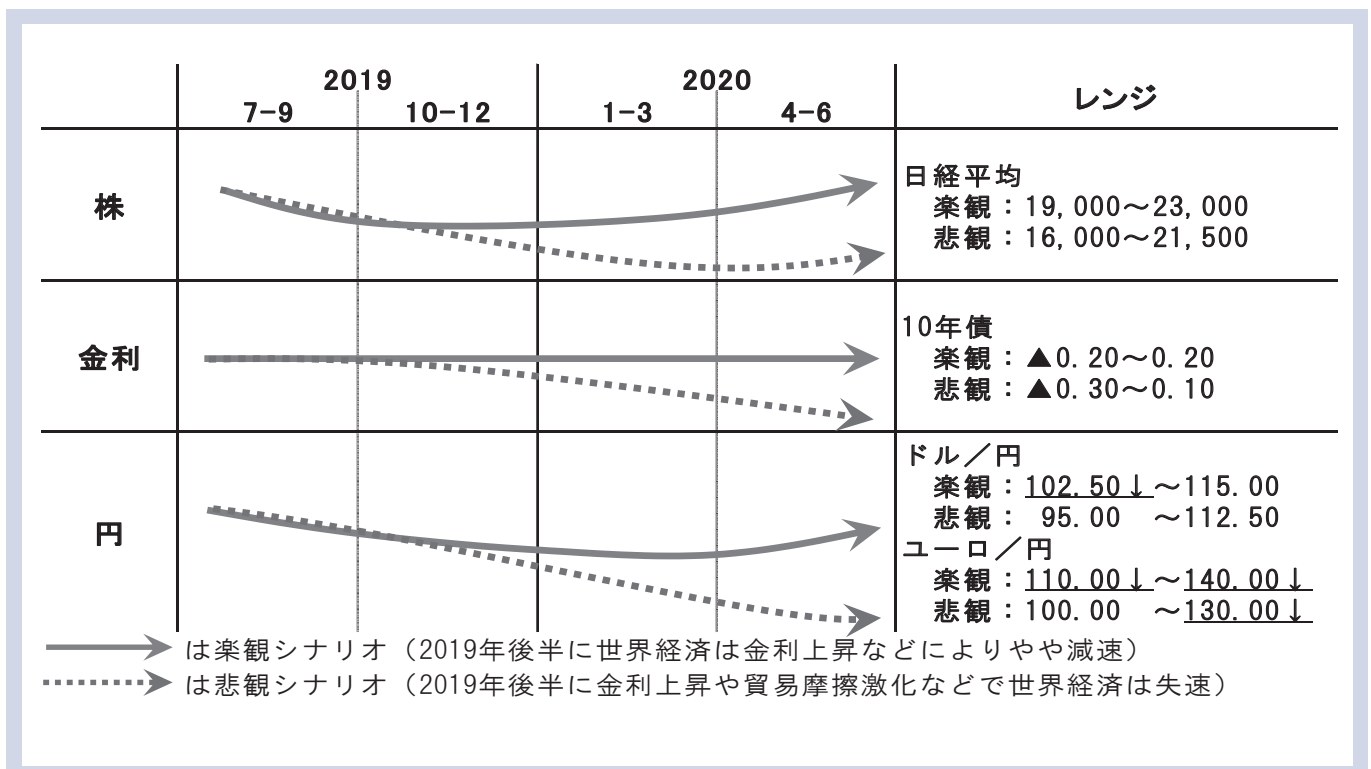
各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

(6月5日時点)

I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	海外経済の減速に伴って輸出に頭打ち感がみられていることから、景気は足元で踊り場状態にある。中国をはじめとして海外経済に下振れリスクがあることに加え、10月には消費増税も控えるなど、景気の先行き不透明感も強い。当面、景気は停滞感の強い状況が続くことが予想される。
② 米国	ねじれ議会のもと、共和党と民主党の対立の激化で政策の不透明感が高いほか、これまでの政策効果が弱まることによって、米国景気は減速しよう。ただし、雇用・所得・資産残高の増加等による個人消費の押し上げを背景に潜在成長率を維持しよう。米中貿易戦争などによる金融市場の過剰反応等が引き続きリスク要因であり、リスクが顕在化した際には、金融緩和余地があるFRBは積極的な対応措置をとろう。
③ 欧州	海外景気の減速や貿易協議の不透明感が欧州景気に影を落としている。製造業の業況判断が一段と冷え込んでおり、今後も景気拡大の足かせとなりそう。ただ、良好な雇用所得環境や緩和的な財政政策が景気の下支えとして働く公算が大きい。景気は緩やかな拡大傾向を維持し、後退局面入りは回避されると予想する。
④ アジア・新興国	アジア・新興国経済では、世界景気の頭打ち感が外需を通じて景気の重石になる。年明け以降の金融市場の変化は追い風になる一方、米中摩擦再燃に伴い中国への依存度が高いアジア・新興国も影響を受ける可能性には引き続き要注意である。他方、中国は景気刺激策に動く姿勢をみせており、アジア新興国への下支え効果も期待される。

II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注) 記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。
 レンジについては、前月号から変更した値に下線を引いております。(上方修正：↑ 下方修正：↓)